インフルエンザの発生状況(富山県)

【第 39 週（ 2026/9/21～9/27 ）感染症発生動向調査速報値（ 2026/9/30 時点）】

定点医療機関※新規患者報告数： **281** 人、定点医療機関当たり **5.85** 人

※急性呼吸器感染症定点（旧インフルエンザ/COVID-19定点、小児科29定点、内科19定点）

図1. 患者報告数の推移（富山県）

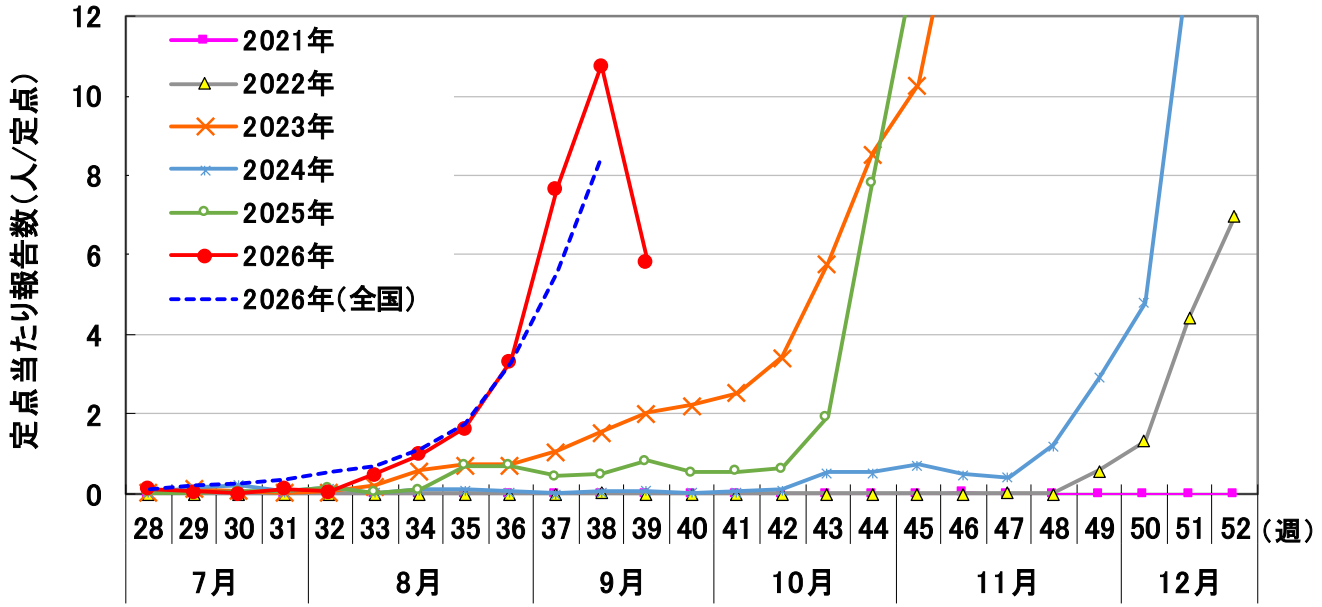
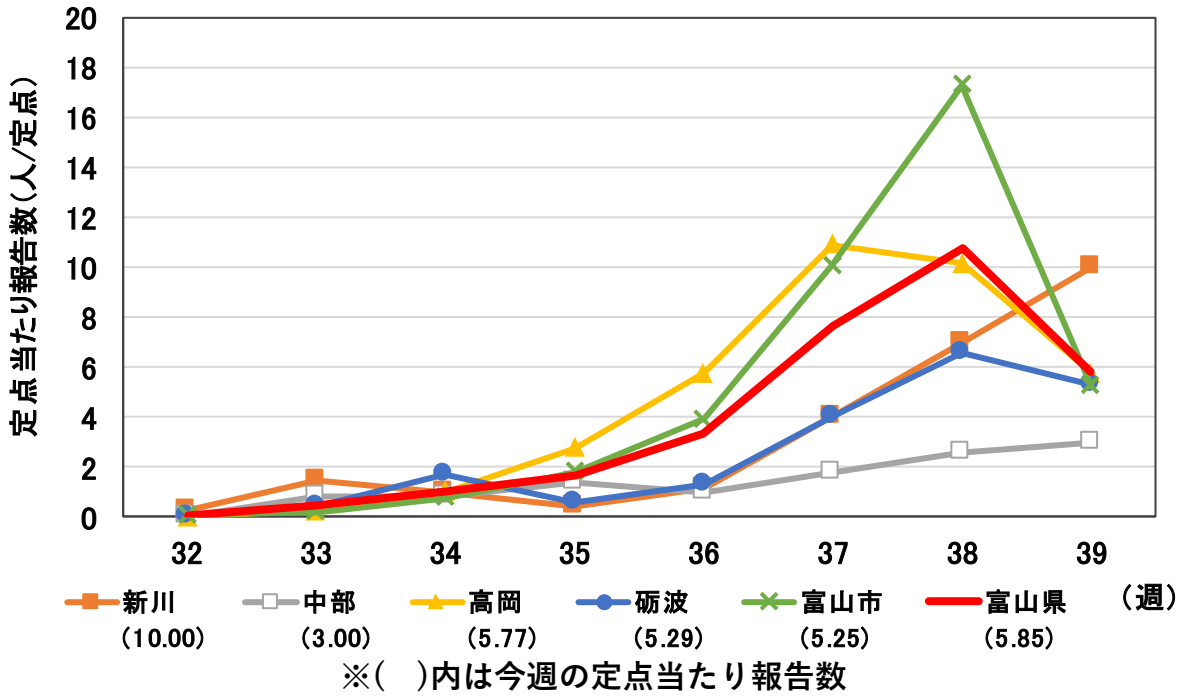


図2. 厚生センター・保健所管内別患者報告数の推移



- 富山県の患者報告数は今週5.85人/定点となり、先週（10.77）から減少した（図1）。ただし、大型連休による定点医療機関の休診により、流行状況を過小評価している可能性がある。
- 厚生センター・保健所管内別に見ると、新川、中部管内で増加したが、それ以外の管内では先週から減少した（図2）。

図3. 年齢階級別インフルエンザ報告数の推移（富山県）

図3-1. <20歳

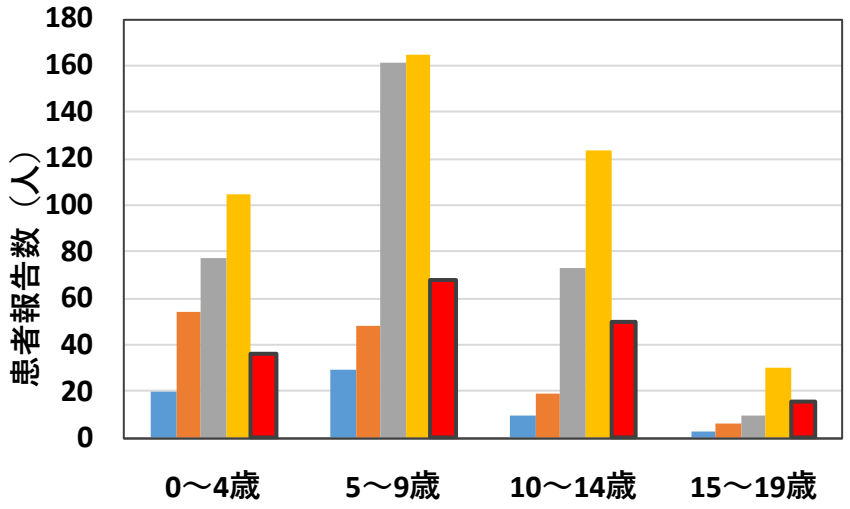
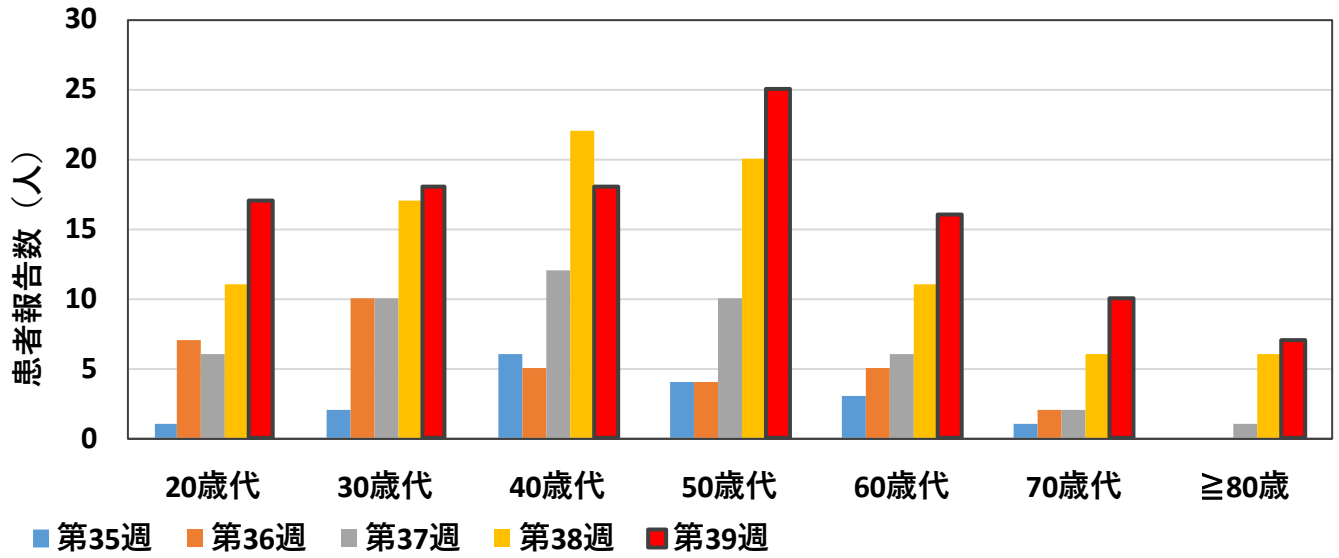


図3-2. ≧20歳



- 20歳未満、40歳代で先週から減少したが、20～30歳代、50歳代以上の年代では先週から増加した。

※定点医療機関は小児科が多い（小児科：29定点、内科：19定点）ことから、小児の報告数は成人と比較して過大評価となることに留意する必要がある。

図4. 都道府県別インフルエンザ報告状況（第38週）

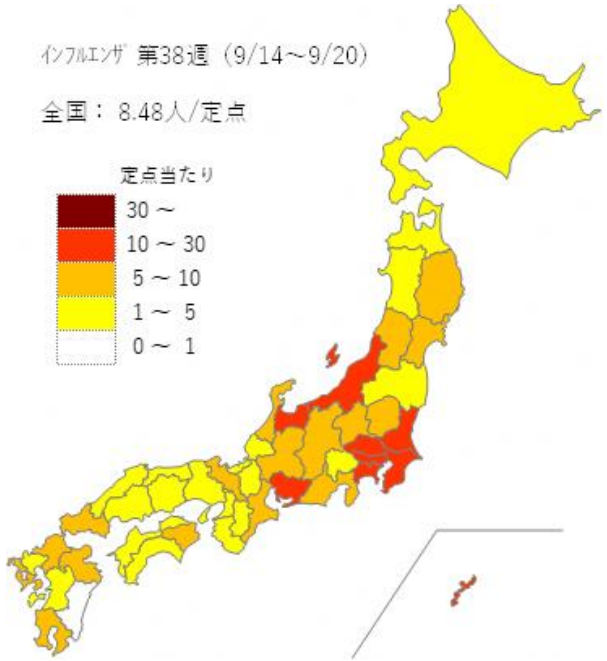


図5. インフルエンザ入院サーベイランス
患者報告数の推移（富山県）

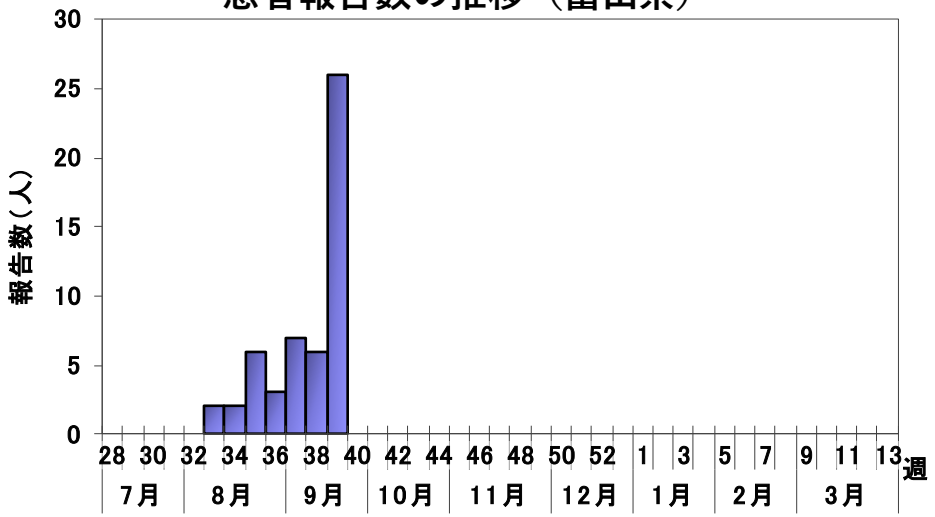
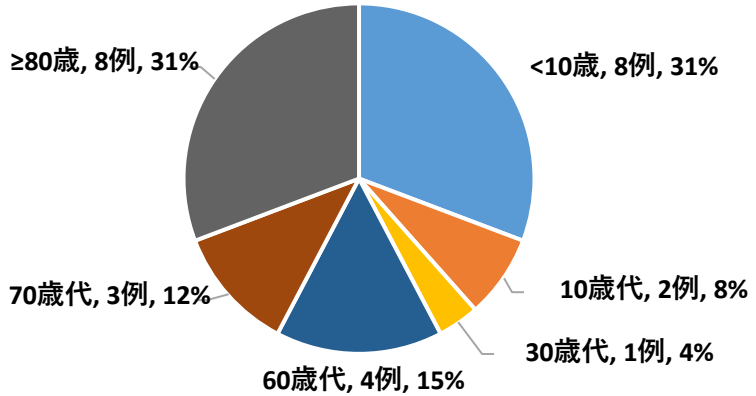


図6. インフルエンザ入院サーベイランス
年代分布（第39週、26例）



- 全国では第38週に8.48人/定点となり、第37週（5.54）から増加した。
  都道府県別にみると、9都県で注意報レベルの基準である10.0人/定点を超えている（図4）。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランスでは、今週26例の報告があり、先週（6例）から大きく増加した（図5）。
- 入院患者の年代は、10歳未満が8例、10歳代が2例、30歳代が1例、60歳代が4例、70歳代が3例、80歳以上が8例であった（図6）。
- 県内の患者報告数は、今週減少したが、大型連休による定点医療機関の休診により、流行状況を過小評価している可能性がある。ただし、入院患者数の急増については、特に注意が必要である。今後、学校等での感染や成人への感染拡大が懸念されることから、引き続き発生動向を注視する必要がある。